

令和4年度第2回利用者懇談会開催結果概要

- 1 日 時 令和5年3月13日（月） 13：30～15：00
- 2 会 場 埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）
- 3 出席委員 本橋委員長、石崎副委員長、青柳委員、井上委員、高村委員、
橋本委員、藤田委員
事務局 新井所長、渡邊副所長、鎌田副所長、薄井事業コーディネータ、
奥ノ木事業・相談担当部長、平澤事業担当課長、丸山相談担当課長、
金子管理担当課長
- 4 あいさつ 埼玉県男女共同参画推進センター 新井所長
- 5 議 事
 - （1）令和4年度事業の状況について 資料に基づき新井所長が説明
 - （2）令和5年度事業計画（案）について 資料に基づき新井所長が説明
 - （3）意見交換

【質疑・意見】

委員：

先日開催されたフェスティバルに若い方の姿が多く、参加している若い方が生き生きしているのが嬉しかった。

今は一つの所が一つのことをやる時代ではない。連携して行うことが重要。

委員：

延べ来館利用者数とあるが、貸出施設利用者以外の方はどのようなことで来館しているのか。

事務局：

情報ライブラリーの利用者や、交流サロンというオープンスペースの利用者、女性キャリアセンター等の来館者である。

委員：

デートDVの防止啓発について、出前講座で中学校や特別支援学校が増えているということだが、増えた理由を教えてください。

事務局：

デートDVの防止啓発講座については、出前講座の一環として行っている。県のホームページに出前講座のメニューのひとつとして提供されている。その中で選んでいただいている。市町の人権教育担当の方たちの目に留まって実施したり、口コミやホームページを見た方からのお申し込みが多い。

講師として派遣する職員が、生徒たちと真摯に向き合い、説明をしてワークを行うなどの対応をしている。生徒の学年や特別支援学校など相手の属性に応じた説明やワークを行っていることから、おかげさまで良い評価をいただいている。

委員：

センターで提供している出前講座は、デートDV防止の啓発以外にどのような講座があるのか。

事務局：

全部で3講座あり、「男女共同参画基礎講座」「災害・防災と男女共同参画」「知っていますか？デートDV」というタイトルである。個別で行う場合もあれば、2つの講座を組み合わせる場合もある。また、すべての講座をまとめて何日かにわたって大学で行われる場合もある。先方の要望に応じ、参加者の属性を踏まえたカスタマイズをして対応している。

委員：

埼玉県には多くの大学があるが、横に広がれないかと思っている。以前あったワールドカフェのような若者が集う企画で、ひとつのテーマについて語り合うなど、つなぐようなものは何か考えているのか。

事務局：

ワールドカフェのようなことは、今の時点ではコロナ禍の影響もあり、すぐに復活するのは難しいが、若者に対する働きかけという点では、有効なツールであると思う。来年度の事業の検討に向けて、考えていければと思っている。

委員：

フェスティバルで大学生がユースクリニックについて発表されていたが、まちの保健室のようなものを若者が素直に提案されていた。看護系の大学に協力いただくと違ったふくらみができるのではないかと思う。

委員：

大学生のユースクリニックについて、フェスティバルの発表で最後と聞いた時、とても残念であった。もう少し早くわかっていたら、いろいろな活動の場所があるのでつなげていけたのではないかと思った。

委員：

困難を抱えた女性等への支援について、市でも講座・セミナーを行おうと思っている。コロナで女性が孤立しているが、特に30代、40代の子育て世代が孤立している感じがしており、この方たちに何か話を聞いていただければと思っている。With You さいたままで実施していることを参考に、来年度も何か実施したいと考えている。

事務局：

今年度の生き方セミナー・グループ相談会は、シングルマザーや生きづらさを抱えた方を対象としている。昨年度まではシングルマザーのみを対象としていたが、今年度はシングルマザーに特化せず、全8回それぞれで対象やテーマを設定し、シングルマザー以外の方も受講できるようにした。結果として、これをきっかけに初めてWith You さいたまに来た方や、With You さいたまを知った方が多数おられて、新たな利用者の拡大に繋がったという大きなメリットがあった。

委員：

男性にとって家事は手伝いであり、育児は協力するものであるという意識について、「男性であるあなたも当事者です」というのはなかなか見えない。無意識な役割分担をどう可視化して、自分ごとにするかということが難しい。

事務局：

県の男女共同参画審議会においても、男性向け講座の充実についてご意見をいただいたので、検討してまいりたい。

委員：

団体で夫婦講座を3年ほど行っているが、昨年初めて、男性とお子様だけで参加いただき、少しずつ男性の意識が変わってきていると思う。ただし、男性を呼ぶのは難しいと感じている。

委員：

困難を抱えた女性等への支援についてだが、40代、50代のシングルで非正規雇用など、将来的に困難を抱えるリスクがあるような女性へのアプローチも、男女共同参画推進センターとして何か考えてもよいのではないか。中高年女性シングルのつながりづくりなど、今後考えていただきたい。

事務局：

来年度すぐには難しいが、セミナーの中の一つに何らかの形で盛り込むなど、今後に向けて検討を重ねていきたい。ただ、このような事業を行うにあたり、県がやるべき事業と市町村がやるべき事業とのすみわけを考える必要があると思う。つながりづくりや居場所づくりという点で考えると、県が直接的・主体的に行うというよりは、より住民に近い基礎自治体である市町村が行い、その取組に対して、県が講師の紹介や広報などの面から支援するやり方もある。

委員：

困難を抱えた女性の課題については、市町村の男女共同参画の担当者向けに研修を行う時に情報提供を行うなどして、気づいてもらうだけでも違うのではないか。

事務局：

市町村職員研修は、内容や時期について全体計画の中でこれから組んでいくところなので、検討課題とさせていただく。